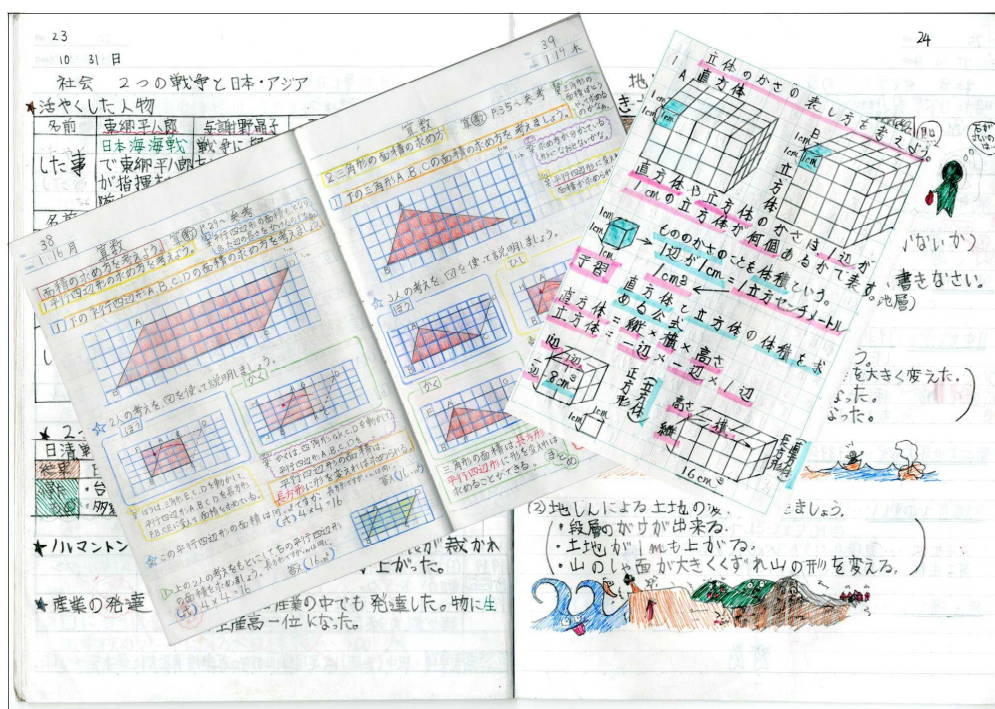


学習の構えをつくり 思考力を育てる

ノート指導の手引き



平成24年度～

北杜市立武川小学校

学習の構えをつくり，思考力を育てるノート指導

ノート指導は，児童に学習の構えをつくり，思考力を育てるために，欠かすことができない。児童は毎日の授業の中で，黒板や教科書に書いてあることを写したり，漢字練習や計算練習をしたり，自分の考えを書いたりしている。毎日行われているノートへの記録の仕方を工夫し，より児童の思考力を育て，学習への構えがつくられるように指導したい。

東京書籍の5年生の算数の教師用指導書には，以下のように記述されている。

「ノートづくりの活動を取り入れた場合，そのために多くの時間が費やされることが予想される。しかし，ノート記述の時間を確保しなければ子どもの思考力・表現力を伸ばすことはできない。したがって，単元や年間指導計画を見通し，重点箇所や学習重点単元を設けるなどして，その箇所でノートづくりを大切にしたい授業を行うようにしていく工夫が必要となる」

本校でも，全学年を通して，児童の発達段階や実態を踏まえる中で，ノート指導を充実させていきたい。

1 ノートの機能

小学生が使用するノートの主な機能は下のように3つ考えられる。

- (1) 記録し，後で学習内容を確認するため
- (2) 練習するため
- (3) **自分の考えを記述し，思考を深めるため**

(1)記録し，後で学習内容を確認するため

学習したことを一度で身につけることはできない。何かに記録し，繰り返し見て，確認することで知識として定着する。

(2)練習するため

計算や漢字を繰り返し練習して覚える。一度だけの練習では定着しにくい学習内容を書くことにより，確実に定着させる。

(3)自分の考えを記述し思考を深めるため →

ノートは思考の足跡

板書だけでなく、授業中に自分が考えたこと、友達が発言した内容なども記録すると、学習効果が高まっていく。書きながら考え、自分の考えをつくりだす作業がノート上で行われ、発想を広げたり、深めたりする。文字に限らず、図や表に書いて考えることもある。

上記(1)～(3)は、はっきりと3つに分かれているのではなく、重複していることもある。特に、(1)(2)は(3)に結びつくことがある。記録として書きながら思考が広がったり深まったりすることや、繰り返し練習していることが思考を促すこともある。

授業の中で「考えなさい」と指示することもあるが、「ノートに書きなさい」と指示した方が結果的によく考えることになることも大いにある。書くことは、考えることであり、自分を見つめ、自分と対話することである。そして、そのためにはある程度時間を要する。

■板書事項を写すだけのノートから、自分なりの考えを記すノートへ
■思考課程・思考の変容がわかるノートへ

2 まず丁寧に書くことが大切

丁寧に書くことは、丁寧に学習に取り組もうとする児童の気持ちを表していると言える。いい加減にしようと考えている児童が丁寧に書くことは通常あり得ない。丁寧に書けば、必ずしも学習の全てにおいて丁寧に学習に取り組んでいるとは言えないが、丁寧に書くことから学習に丁寧に取り組む構えが見える。また、反対に丁寧に書くことを入り口にして、丁寧に学習する構えも作られると考えられる。

この丁寧に取り組む態度は、落ち着いて授業に取り組もうとしたり、集中して授業に取り組もうとしたりする気持ちと表裏一体の関係にある。そして、丁寧に書く構えを、丁寧に聞く、丁寧に思考する構えに波及させたい。「丁寧」をキーワードに、児童個人も学習集団としての学級も学びの質を向上させることが期待できると考える。

丁寧に書くことを大切にしたい

丁寧に書かせるためには、①正しい姿勢で、②正しい鉛筆の持ち方で、③形の正しい文字で、④マス目からはみ出さないで、丁寧に書かせることが必要である。丁寧に書きなさ

いだけ伝えるだけでは、丁寧に書くことはできない。

しかし、

書く目的によって書き方を変える

ことも必要である。

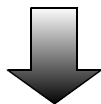
ノートの「記録」という面を重視すると、丁寧に見やすく書かれていた方がいいが、「思考」という面を重視する場合、あまり丁寧にこだわらずに頭に浮かんだことをすらすら書いた方がよい。あまり丁寧にこだわると、思考が止まってしまうことにもなりかねない。

3 構造的に書く

構造的に書くとは、情報のつながりを意識して、どこに何が書いてあるのか見やすく書くことである。

具体的には、今どんな勉強をしているのか、何が問題なのか、自分はどう考えるのか、それはなぜか、などということを意識して、書く場所や書き方を考えて書くことである。

ノートを見やすく構造的に整理して書くことで、情報を構造的に理解することができ、情報が構造的に頭の中に入る。



構造的に書くことにより、思考力が育つことも期待できる。

**思考力を育てるために最も大切なことは、
自分の考えを書くことであり、
構造的に書くことである。**

※自分の考えを書くことについての説明はここでは割愛する。

平成 23 年度の研究内容であり、今後その部分をこの資料に追加していく。

指導事項

以下の指導事項は、学年の発達段階や学級の実態を考慮する中で取り上げるようにする。

① 日付を書く。

ノートに何かを書くときには、必ず日付を書くようにする。そうすることにより、復習などの際に役立つ。できればノートの欄外に書く。学習内容と離して書くことにより、すぐに日付が目に入ってくる。これも構造的に書くことの一つである。

比較的時間にゆとりがある低学年は「〇月〇日（ ）」と書き、中学年以降は「〇／〇（ ）」と簡単に書き、学習内容にできるだけ時間をかけられるようにする。（ ）内は曜日であり、一週間を時間割に沿って学習している子どもたちは、曜日を記録しておいた方がいつ学習したのかを想起しやすい。

40だん
ヒント かけられるか
1/18 ① 台にタイヤを4こつけま
(金) す。かき終
P20 ① 5台分では、タイヤは何
こいらいますか。

低学年

6 16 木
1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 +
2 6 5 の ゼ リー を 買 う の に
③ し じ で い ろ ろ の 冊 を 出
し ま し た 。 お っ り は い く
で す か 。

中学年

1/10 ブロック遊び
(木) 1 ⑦ ... 6個分 ① ... 3個分
⑦/10 ⑤ ... 2個分
2 ① 作れません ② 作れます
4 ⑤ ... 4個分

高学年

② 単元名や見出し、めあてを書く

(「問題」, 「答え」, 「理由」などを分けて書く。)

ノートを開いたときに、どこに、何が書いてあるのかがひと目でわかるようにするため

に、見出しを書く。見出しは、「単元名」や「学習問題」であることが多い。例えば、理科で言えば、「実験1」「予想と理由」「結果」「わかったこと・感想」という見出しをつけることにより、学習内容を整理して書くことができる。この例のように、順序立てて書いていくことは、学習内容を整理して理解していくことになる。これは、教師側からすると、授業を順序立てて教えることになる。

学習のめあてを書くと、1時間の中で何を学習するのかが明確になる。また、学習の終わりに、その時間の学習を振り返るときにも使える。

心	わ	十	を	見	心	わ	十
に	た	二	見	つ	に	た	二
の	し	月	つ	け	の	し	月
こ	は	す	て	書	こ	は	す
わ	ね	五	き	ぬ	わ	ね	五
た	ね	日	こ	う	た	ね	日
こ	え	水	う	や	こ	え	水
と	さ				と	さ	
ば	ん				ば	ん	
や					や		
文					文		
を					を		

低学年

課題

① 太一はなぜ瀬の主を殺さなかったのだろう。

② 太一はなぜ瀬の主のことを話さなかったのだろう。

③ 「海の命」とは、どんな意味だろう。

。私の課題②

。考え

女主人の事を話せば、村中の人か主を追い求めてつかまえられるしまいかもしれないから

女主人の事を引きついで、海の命を大切にしたいと思、たし、父のように少しもじまんすることのない人になりたかったから。

。仲間の考え

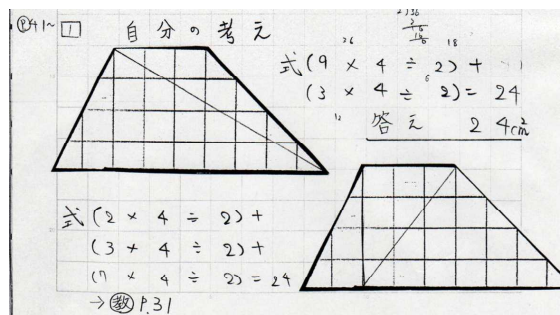
自分の考えとほとんど同じで瀬の主のことを話せば村の人か殺してしまうかもしれないから。

高学年

③ 関連するページを書く。

関連する教科書、ドリル、参考書の名前とページを書いておくと、あとで調べたり、確認するときに役に立つ。学年があがるにつれて、教科書以外のテキストを参照する機会が増えてくるので、自分がどのテキストを見たのかがわかるとよい。以下のように略語や略記号を用いて書く方が短時間で記録でき、視覚的にもすっきりとする。

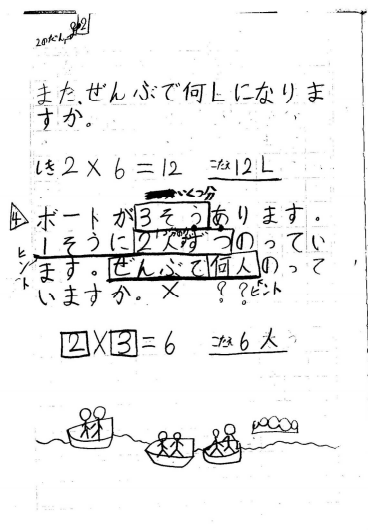
④ p 22 ⑤ ド p 40 ⑥ p 3415 ※1はエル（何行目かを示す）



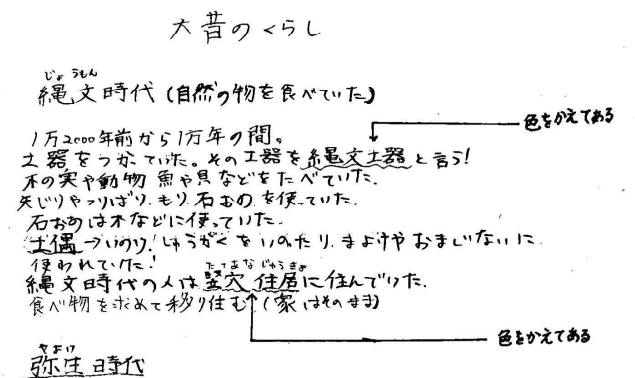
高学年

④ 大事な言葉は、文字の色で強調する

黒を基本とし、黒を入れて3色くらいまでにする。多くの色を使うことで、たくさん
色を使い分けることに余計なところに意識がいき、時間もかかるし、どこが一番大事なの
かわからなくなる。



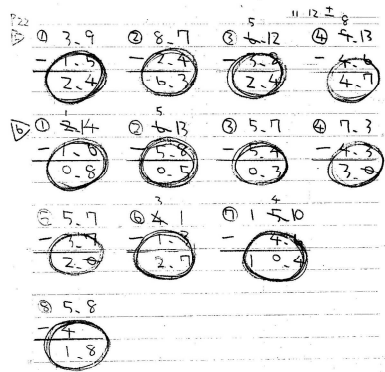
低学年



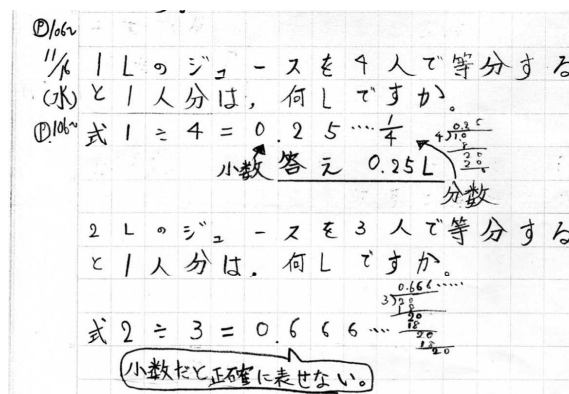
高学年

⑤ スペースをとる (間を空ける)

単元が変わったときや新しい見出しをつけるときに、1～2行の間を空けることで全体
の構造がはっきりしてわかりやすくなる。また、一つの問題が終わったときに間が空いて
いれば、間違えたときに修正するスペースも確保できる。さらに、余白があれば、気づき
やメモを書くことも可能となる。線で囲んだところや赤線で強調したところも、前後に間
を空けることでさらに際立たせることができる。



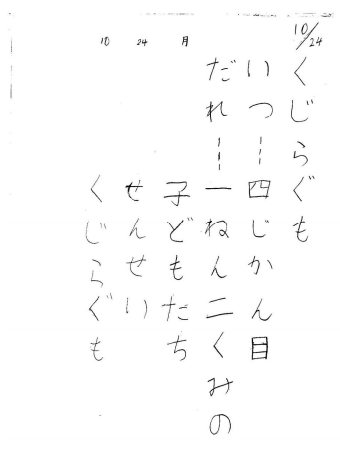
中学年



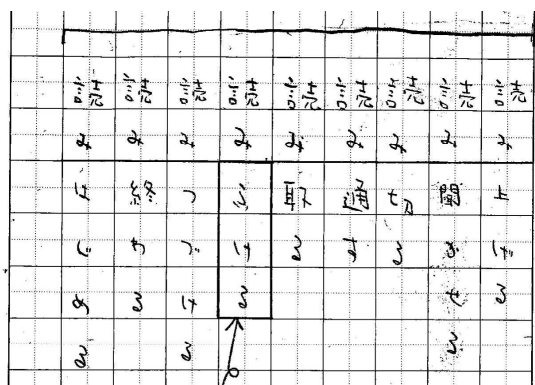
高学年

⑥ 縦と横の通りをそろえる。

マス目や罫線を利用して、縦と横のラインをそろえて書けるようにしたい。縦横を整理して書けるようになると、構造的になってくる。問題番号を書くと、縦と横のラインをそろえる助けになる。番号をそろえようという意識が働くからである。



低学年



中学年

握力測定記録(1組) / (3)(2)で整理した表を見ながら柱状グラフに表そう。

握力(kg)	人数(人)
10~15	1
15~20	7
20~25	5
25~30	2
合計	15

(2) 握力測定記録(1組)

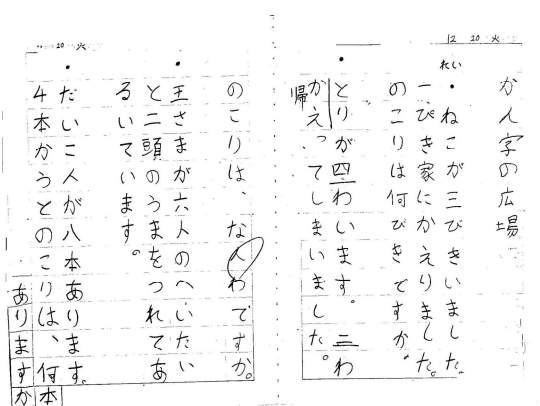
高学年

⑦ だらだら書かずに、箇条書きにする。

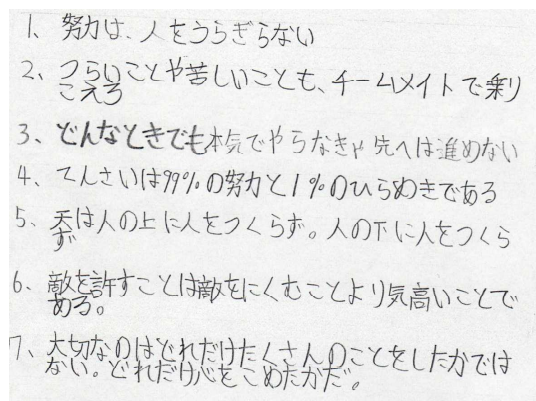
中学年になったら、箇条書きを指導したい。

箇条書きにするために、短くまとめようという気持ちが生まれるため、内容的にもわかりやすくなる。

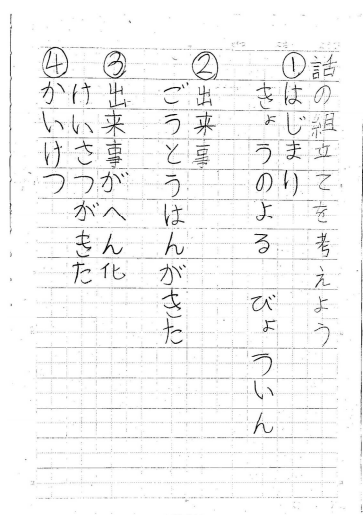
箇条書きにする場合、先頭に番号や○、
・などの記号を使う。理科の実験の手順や社会科見学の質問、いろいろな教科や領域で利用できる。



低学年



高学年



中学年

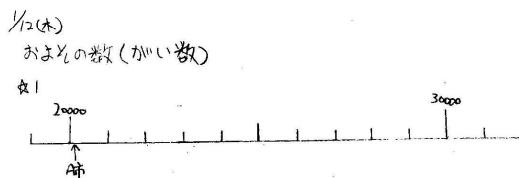
⑧ 定規を使う

10 cm くらいの短めの定規を常に筆箱の中に入れておく。鉛筆をしっかりと定規に当て、まっすぐな線を引く習慣を身につけさせる。図や表を作成するときには欠かせない。

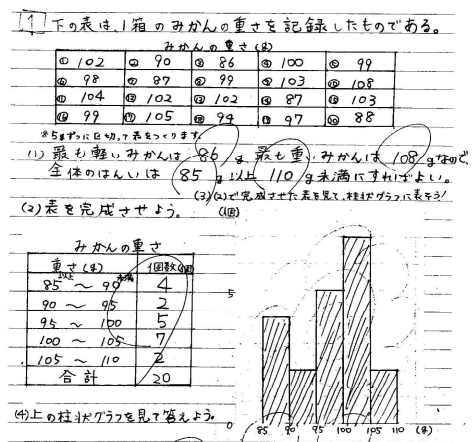
定規を使うときれいに仕上がるが、書く速さが遅くなるので、高学年になったらある程度はフリーハンドできれいな直線を引けるようにしていくことも必要になってくる。定規を「使う」ときと、「使わない」ときを区別する使い分けが必要である。

1000 1000 1000 1000 1000		1000 1000 1000 1000 1000	1000 1000 1000 1000 1000
千	百	十	一
6	0	4	7

低学年



中学年



高学年

⑨ 線で強調、区切りをつける

アンダーライン、サイドラインを引いたり、線で囲ったりすることで、大事なところを目立たせることができる。

■タイトルや見出しの他、大切なところや強調したいところに線を引く。

特に強調させたいところは、二重の線や雲形の線で囲むなどの工夫も考えられる。

■問題や大事なところは、線で囲む。

学習問題は線で囲むと、どこが問題なのかがよくわかる。

■真ん中に縦線を引き、左右で内容を対比させる。

12/2

② おやのしまうまが12とう
こどものしまうまが3とう
います。おやのしまうまと
こどものしまうまでは、
どちらがなんとうおおいでしょう。
しき $12 - 3 = 9$
こたえ おやのしまうまが

低学年

□を使うとお話のとおりに
式に表せる。

けんたさんは、カードを何
まいか持っています。弟に
18まいあげたら、のこりは
24まいになりました。
ひき算の式に表そう。

はじめ まい
のこり24まい 18まい
あげた

↓

式 □ - 18 = 24

24 + 18 = 42

はじめの
まいをか
す 18まい
かす = のこりの
まいをか
す

中学年

② $\frac{2}{3}$ mの赤いリボンと、 $\frac{3}{4}$ mの青いリボンが
あります。
どちらがどれだけ長いでしょうか。

どうやって比べたらよいか。通分して計算を比べる。

$\frac{2}{3} = \frac{2 \times 4}{3 \times 4} = \frac{8}{12}$ $\frac{3}{4} = \frac{3 \times 3}{4 \times 3} = \frac{9}{12}$

高学年

⑩「記号」や「吹き出し」，「キャラクター」を使う

<記号>

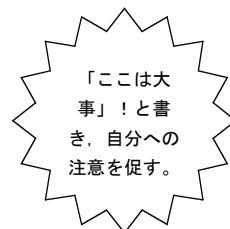
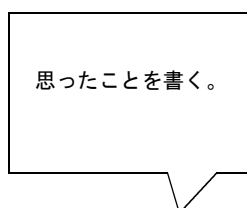
- ・矢印「→」「↑」等……各部分のつながりがひと目でわかる
- ・「※」や「！」……大切なところや目立たせたいところ
- ・「？」……よくわからないところや調べてみたいところ

箇条書きや見出しの頭に●や■などをつけることで目立つようにできる

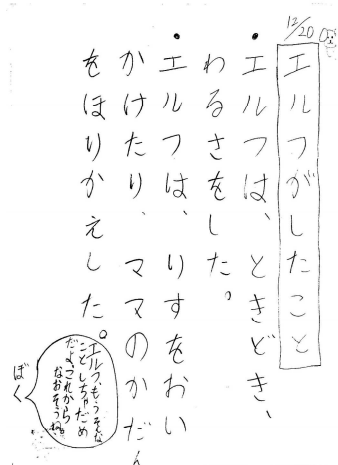
<吹き出し>

- ・「ここは大事」「テストに出るかも」など、注意を促すポイントを示す。
- ・気づきや大切だと思ったことを書く。

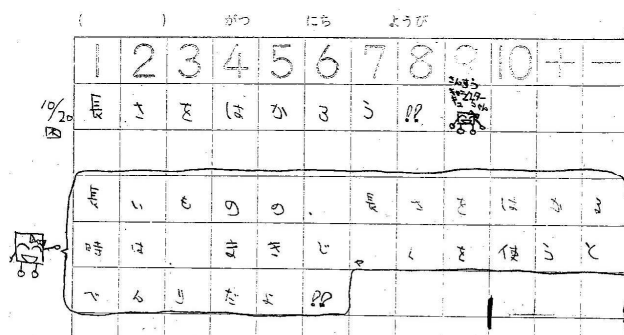
吹き出しは、肩の力を抜いて書きやすい。



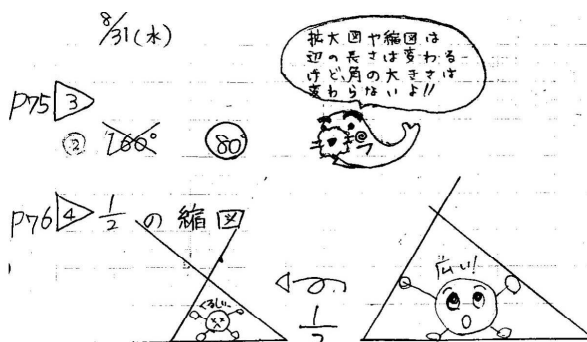
※吹き出しの使いすぎに注意をし、吹き出しを書くことにばかりに時間を費やすことがないように、「1 ページに1～2 個まで」のように、学年で約束を決めておくことも必要である。



低学年



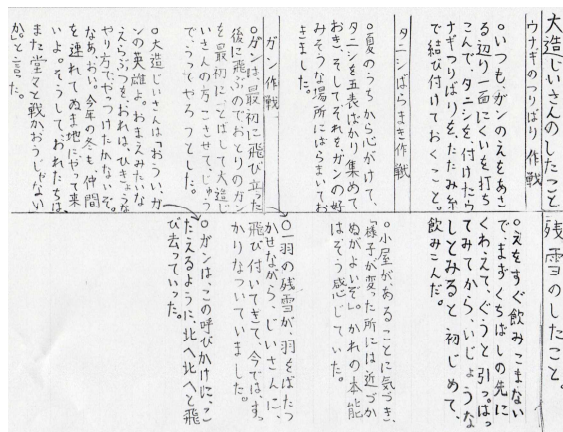
中学年



高学年

⑪ 段ノートの利用

ノートを2段や3段にし、項目を分けて書く。項目を分けて整理して書くことにより、構造的になってくる。例えば、①場面、②読み取ったこと、③自分の考えのように分け書く。



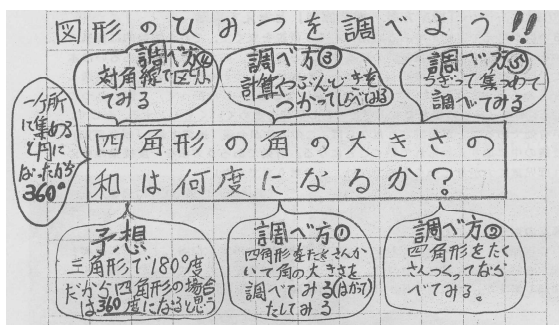
高学年

⑫ 自分の考えを書く

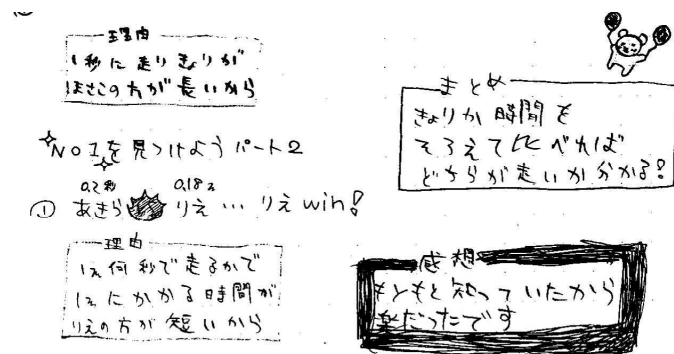
たとえ短時間でも、毎時間自分の考えを書く時間を確保する。児童の思考力を育てるために、ノートの機能の中でも最も大切なものである。学習感想なども必要に応じて書かせたい。

(式)	5	×	30	=	150	(答え)	150人		
やり方	①								
まず、	5	×	30	を	は	ん	た	い	に
づきに	筆算	を	す	る	$\begin{array}{r} 30 \\ \times 5 \\ \hline 150 \end{array}$				
なせ	か	と	い	う	と	か	け	算	は、
んた	い	に	し	て	も	答	え	は	同

中学年



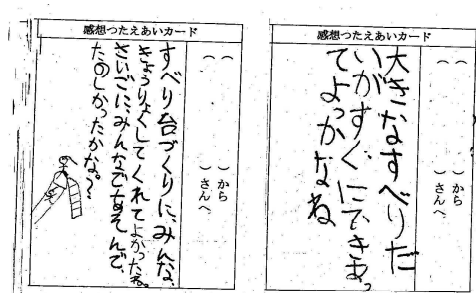
高学年1



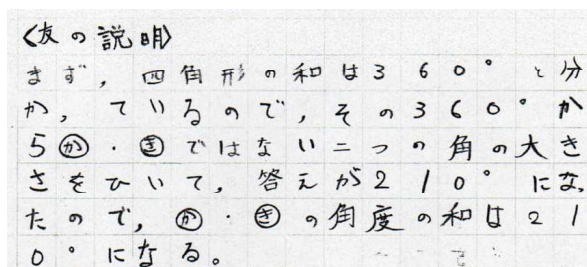
高学年2

⑬ 友達のことを書く

自分の考えだけではなく、友達の発表を聞いて「なるほど」と思ったことをノートに書き、考えを広めたり深めたりする。



中学年



高学年

⑭ 教師と同じ速さで書く

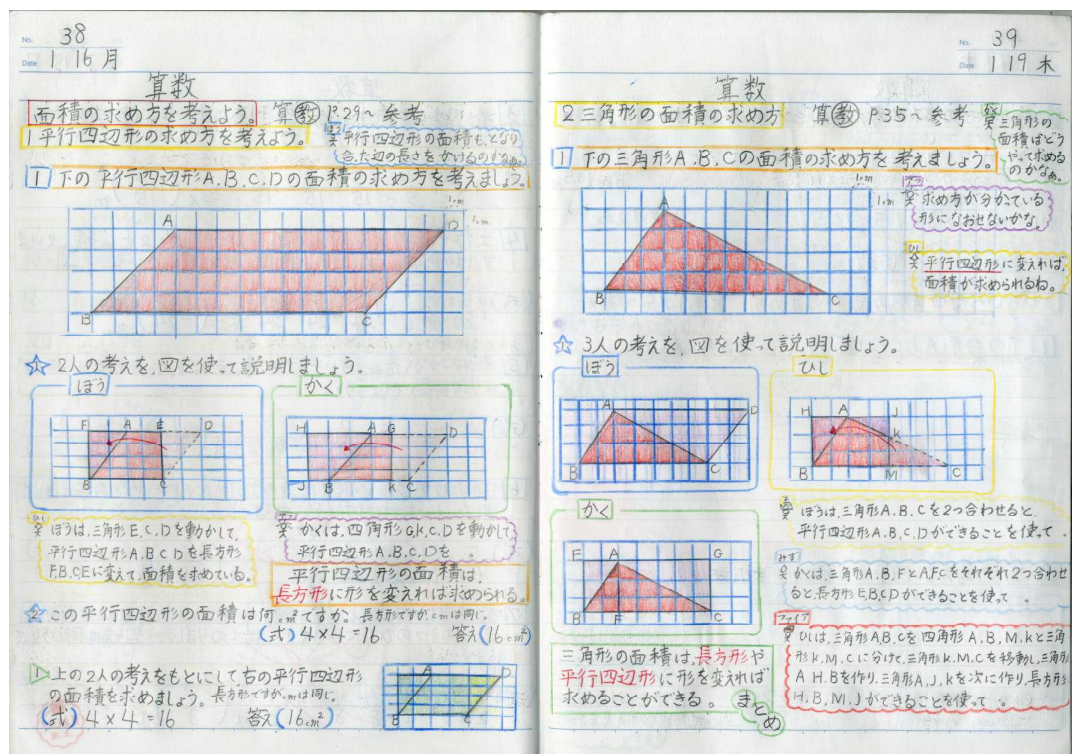
できるだけ教師の書く速さと同じくらいに書けるようにする。板書を写すときに、一語一語見ながら写すのではなく、文節や文などまとまりのある言葉を一度記憶してから書く習慣を身に付けさせたい。考える時間を確保するためには、ある程度速く書く力が必要になってくる。

上記の指導事項は、家庭学習におけるノートの取り方においても基本的には同じである。ノートの使い方に関して授業の中で指導したことが、生かされるようにしたい。

最後に、子どものノートと教師の板書は一体的なものである。計画的で、整理され、構造的に書かれたよい板書がよいノートづくりの基本である。

よい板書がよいノートをつくる





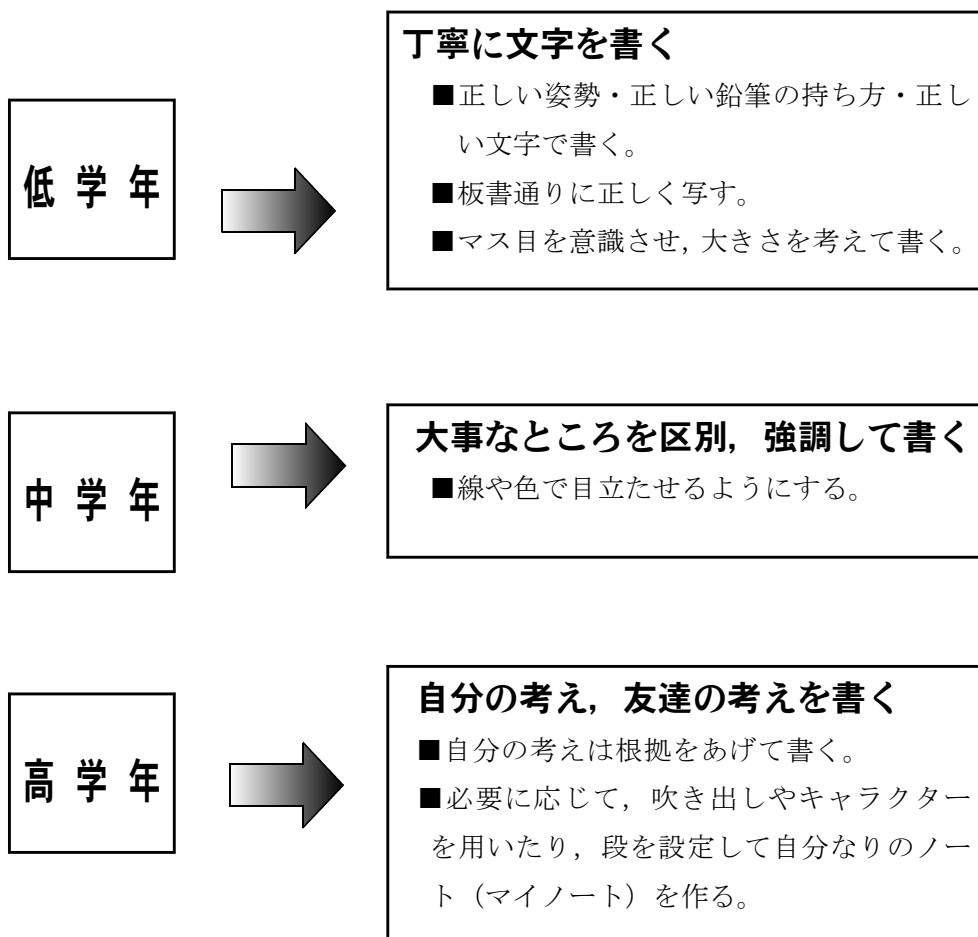
高学年の自主学習ノートから

各学年の使用ノート一覧（参考）

	1 年	2 年	3 年	4 年	5 年	6 年
国 語	21 mmマス 10 × 7 行	15 mmマス 15 × 10 行	12 mmマス 18 マス × 12	10 mmマス 18 マス × 15	9 mm縦罫 (10 mm縦罫)	9 mm縦罫 (10 mm縦罫)
社 会			10 mm方眼 10 mm横罫	10 mm方眼 10 mm横罫	10 mm方眼 8 mm横罫	8 mm横罫
算 数	18 mmマス 12 × 7 行	12 mmマス 12 × 17 行	10 mm方眼	10 mm方眼	10 mm方眼 (8 mm方眼)	10 mm方眼 (8 mm方眼)

上記を参考に児童にノートを使用させる。(あくまでも目安であり、柔軟に扱うものとする)

低・中・高学年の指導重点項目



※重点項目として示したが，低・中学年においても上学年の指導項目を積極的に指導する。

参 考 文 献

親野智可等（2009）
京都女子大学附属小学校（2010）
京都女子大学附属小学校（2011）
主婦の友編（2009）

「小学生の学力は『ノート』で伸びる！」すばる舎
「考える子どもを育てる京女式ノード指導術」小学館
「京女式ノード指導術2」小学館
「秋田式家庭学習ノート」主婦の友社